

保健管理センター

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	1 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	2 人	

2 教員の異動状況

橋本 大（講師）（H22.3.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	16.25	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Kusagaya H, Fujisawa T, Yamanaka K, Mori K, Hashimoto D, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Wu R, Maekawa M, Suda T, Chida K : Toll-like receptor-mediated airway IL-17C enhances epithelial host

- defense in an autocrine/paracrine manner, Am J Respir Cell Mol Biol, 50(1), 30-9, 2014 年. 【呼吸器】 【4.148】
2. Fujisawa T, Yasui H, Akamatsu T, Hashimoto D, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Maekawa M, Suda T, Chida K : Alveolar nitric oxide concentration reflects peripheral airway obstruction in stable asthma, Respirology, 18(3), 522-7, 2013 年. 【呼吸器】 【2.781】
 3. Hozumi H, Tsujimura K, Yamamura Y, Seto S, Uchijima M, Nagata T, Miwa S, Hayakawa H, Fujisawa T, Hashimoto D, Inui N, Suda T, Chida K, Koide Y : Immunogenicity of dormancy-related antigens in individuals infected with Mycobacterium tuberculosis in Japan, Int J Tuberc Lung Dis, 17(6), 818-24, 2013 年【呼吸器】 【2.610】
 4. Enomoto N, Suda T, Kono M, Kaida Y, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Imokawa S, Funai K, Chida K : Amount of elastic fibers predicts prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis, Respir Med、 107(10), 1608-16, 2013 年【呼吸器】 【2.585】
 5. Akamatsu T, Shirai T, Kato M, Yasui H, Hashimoto D, Fujisawa T, Tsuchiya T, Inui N, Suda T, Chida K : Switching from salmeterol/fluticasone to formoterol/budesonide combinations improves peripheral airway/alveolar inflammation in asthma, Pulm Pharmacol Ther, 27(1), 52-6, 2014 年【呼吸器】 【2.543】
 6. Hozumi H, Nakamura Y, Johkoh T, Sumikawa H, Colby TV, Kono M, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Suda T, Chida K : Acute exacerbation in rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease: a retrospective case control study, BMJ Open, 3 : e003132, 2013 年【呼吸器】 【1.583】
- インパクトファクターの小計 [16.25]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Q&Aでわかる 呼吸器疾患ガイドライン実践ブック、気管支喘息〈疫学・病態〉など、監修者 千田金吾、編集者 須田隆文 乾直輝 中村祐太郎、南光堂、東京都文京区、2013 年、【呼吸器】

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

5 医学研究費取得状況

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(247 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

8 学術雑誌の編集への貢献

9 共同研究の実施状況

10 産学共同研究

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道